

1. 調査報告概要表

作成日 2008年10月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1072700378
法人名	株式会社ヴィラージュ
事業所名	グループホーム 美ら寿の家
所在地	群馬県利根郡昭和村赤城原820-1 (電話) 0278-30-9051

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミュン100-1B
訪問調査日	平成20年9月24日

【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほたか病院 ほたか医科歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

赤城山をバックに、四季の移り変わりを肌で感じることができるホームである。清潔感のある館内は季節にあった置物や装飾品が掲示されており、居心地の良さを感じさせる。管理者と職員はお互いの情報を交換しながら、利用者一人ひとりの状況にあったサービスが提供できるよう心がけている。特に利用者の好みを聞きながら旬の食材と工夫した調理方法で提供している食事には、努力している姿勢がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画は状態に応じて見直しをしているが、状態が落ち着いていても月に1度はモニタリングを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>日頃意識せずに済ませてしまいそうなことも、自己評価をすることで職員それぞれが見直し改善していく視点が育つため、職員皆で取り組んでいる。今回は医療的視点が改善し、予防の重視を意識することができた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度開催されている運営推進会議では、参加メンバーの変更もあり、ホームの実情を理解してもらうことを目的に、状況報告や催しものへの参加をお願いしている。行政との情報交換が活発に行えるような関係を深めていきたいと考えており、毎月の状況報告や問い合わせにも積極的に応じていく方針である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には毎月請求書と一緒にホームでの生活の様子を知らせており、面会時には要望も届くよう声かけもしている。意見が出しやすいう「いい考えを教えてください」と問いかけ、苦情受付の窓口も明示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開所当初から積極的に地域に働きかけ、行事に参加したり地域の保育園や学校とも関わりを持ってきている。今後は今までの積み重ねを生かし、さらに気軽な近所づきあいができるようにしていきたいと考えている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度末に地域密着型サービスの理念を取り入れるため、職員全体で意見交換を行い現在の理念を作り上げた。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼では理念を唱和している。地域密着型サービスについては研修でも取り上げ理念の実践につなげていきたいと考えている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行う道路愛護活動には利用者もできる限り参加したり、畑を通して近所づきあいもしている。また、保育園や小学校との交流も継続して行っている。今後はさらに気軽な行き来をしていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃気が付かないことを意識し、改善していくことが評価の意義と捉え、職員それぞれで取り組むよう工夫している。今回も医療的視点として予防重視の考えを意識するようになった。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。ホームの実際を理解してもらうために、生活の様子や行事を報告したり、催し物への参加を働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、会議以外にも定期的に電話でホームの空き状況を含めて情報提供をし、問い合わせには積極的に応じる姿勢で臨んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月請求書と一緒にイベントのお知らせ等写真とメッセージをつけて家族に送付している。面会時には生活の様子を伝えたり家族からの要望を聞くようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の窓口は掲示している。『良い考えはないでしょうか。教えてください。』と家族に問いかける姿勢を大切にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に支障が出ないよう異動等は最小限にしているが、法人としては研修を経て、適材適所の異動を実践している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として月2回に分け、年間で12項目の研修に取り組んでいる。他にもグループホーム連絡協議会の研修に交代で参加している。		昔ながらの高齢者福祉サービスのままであるとの理解が地域で根強い現状を改善していくためにも、グループホームの利用状況や具体的な内容を職員誰もが正確に把握し、地域の中でアピールできるような研修も積んでみてはどうだろうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用にあたっては家族からの問い合わせや相談が多く、いつでも相談や見学に応じている。	○	利用者本人がスムーズにサービスを利用できる様に、見学や体験入所、ホーム側からの訪問なども取り入れてみてはどうか。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者それぞれによってふれあいを深める方法は違うことを認識し、関係作りをしている。また、職員も悩みを聞いてもらうなどお互いに支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の様子や会話を通して職員が感じ取った利用者の思いや意向を情報交換し、共有しながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人家族の要望を踏まえながら、職員間で話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は状況に応じて見直している。また、状態が安定していても月に1度はモニタリングを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて、同一法人が行っているデイケアを利用したこともある。買い物や他施設の行事参加にも支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じ、月に1回は医療機関を受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化した際の対応については話し合っている。今年度末には、重症化した際の対応について文章化していく方向になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないよう、言葉かけや記録などに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人なりの一日の生活の流れを把握し、入浴やテレビ観賞など希望に添うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを聞きながら、旬の食材や調理方法を工夫したメニューを提供している。利用者と一緒に職員も食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴できるよう目安となる表はできているが、希望に応じ、毎日でも入浴はできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の体力や機能が生かせるよう、洗濯たたみや新聞たたみ、カーテンの開け閉め、エプロンたたみ、草むしりなどを楽しみながらできるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の変わり目は体調が崩れないよう配慮し、ドライブや外出の行事を組んでいる。日常的に車イスでも散歩に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前鍵をかけていたために不穏になった経験を踏まえ、夜間以外は玄関も鍵はかけずにいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。今年度も昼夜を想定した訓練を地元の消防団にも協力してもらい行っている。日常的には民間の警備会社と契約を結んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はすべてチェックしている。水分量は食事を含めた一日の目安として1,800CCを摂取するようにしており特別チェックはしていない。注意が必要な利用者はチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関をはじめ廊下も食堂も季節感のある置物や利用者の作品を掲示しており、自然の光も取り入れ居心地よく過ごせる環境を作り出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや家族の思いが伝わる個性的な居室になっている。		